

輝人 かがや



番組レポーター坂本 三佳さんと共に写真提供：ジム・モックフォード

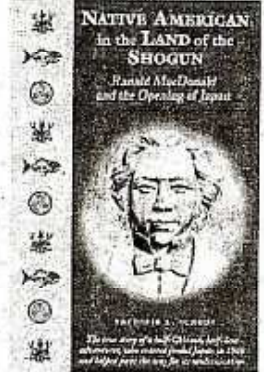
日米交流の知られざる功労者 ラナルド・マクドナルド研究 ジム・モックフォードさん

モックフォードさんは日本語を学んだオレゴン州で亡くなるが、終始日本に対して好印象を持っていた。これには彼が幼少の頃、オリンピック半島に漂着した音吉、岩吉、久吉の3人の漁師に対する好奇心も影響していたといわれている。

しかし、1970年代までマクドナルドの功績は故郷でも知られていなかった。当時、アストリア図書館長だったブルース・ハーニーさんが偶然資料を発見。自身も英語教師として日本に滞在経験のあるハーニーさんは74年、マクドナルド生誕150周年記念事業を成功させた。88年には「マクドナルド友の会」が発見。現在はモックフォードさんが会長を務める。

現在の会員数はおよそ60人。モックフォードさんはあらゆる機会でラナルド・

マクドナルドは利尻島にはたどり着いたものの、幕府の鎖国対策のため密入国の疑いで稚内、松前、長崎へと送られたが、送還までの半年間、14人の日本人に英語を指導。その中には後にペリー提督との交渉で通訳を務めた森山栄之助も含まれている。



マクドナルド関連の書籍は近年目立つようになった

草の根の運動から・・・

マクドナルドの生涯について語っている。今年4月のシアトル桜祭・日本文化祭でも講演を担当した。今現在は博物館に展示する資料を集めています」と説明する。

モックフォードさんは先日、TBSテレビのテレビ番組「世界ふしぎ発見」の12月2日放送「日米交流はここから始まった」幕末サムライ英会話学校」でマクドナルドにかかわる取材を受けた。「草の根の運動ですが、時に今回のように予想を超える反応があります。こうして、日本でもマクドナルドのことがテレビに取り上げられ、多くの人が彼について知る機会を得ることはとても素晴らしいことだと思うのです」

（福葉 八重子）